

熊 事 研 会 報

第106号

平成24年3月22日

発行人 熊本県学校事務研究協議会

会長 宮本 和明

編集代表 研究部長 平木 雅万

〒869-4601 八代郡氷川町今 39

TEL0965(62)2525 FAX0965(62)4460

- ・会長挨拶
- ・全事研セミナー参加報告
- ・編集後記



ご挨拶

熊本県学校事務研究協議会 会長 宮本和明

やっと春めいてきたこのごろですが、会員の皆様におかれましては、年度末で大変慌ただしくお過ごしのことと思います。

さて、今年度の熊本県学校事務研究大会時の総会におきまして、いくつかの規約改正をご承認いただきました。そこで、改正後の活動状況につきまして、お知らせをしたいと思います。

まず、平成27年度全国学校事務研究大会熊本開催に伴う実行委員会(特別委員会)の設置についてご承認いただきました。大会後の2回の理事会において、慎重に検討いただき、準備委員会を来年度早々に立ち上げること、実行委員会への移行をスムーズに行うことなどを承認いただきました。今、具体化に向けた準備作業を行っているところです。

全国大会を成功させ、私たち会員一人ひとりがその成果を享受できるようにするためには、体制確立や環境の整備も急がれるところですが、何よりも大切なことは、全会員のご理解とご協力をいただきながら開催に向けた諸活動を行うことだと思っています。よろしくお願い致します。

また、賛助会員制度につきましてもご承認をいただきました。今年度以降ご退職の方へは別途ご案内申し上げます。短期的には全国大会に向けてのご協力を、長期的には末永い現職とのご厚誼を願いたいと思いますので、是非、賛助会員になっていただきますよう、よろしくお願いいたします。もちろん、過去にご退職された方も大歓迎ですので、お知り合いの方がおられましたら、お声かけをお願いします。

ご承認いただいた3点目が、年度初めの理事会に限らず会長を選出することができるようになったことです。第4回理事会報道にてご承知のとおり、新しい規約のもと、熊本市の藤川英一氏が理事会において選出されました。人格識見ともに優れた方ですので、本研究会を更に発展させていただけるものと確信するところです。また、新年度当初から名実ともに活動いただくことが可能となり、空白期間を避けることができます。

また、事務局長には、熊本市の上田千浩氏が継続して選出され、継続性の点につきましても問題なく運営ができるものと思います。

最後に私事となりますが、退任にあたり、一言お礼を述べさせていただきます。

会長としての2年間、会員の皆様には大変お世話になりました。何とか職責を果たすことができましたのも、理事会や、事務局・研究部の皆様、そして会員お一人お一人に支えていただいたおかげだと、深く感謝申し上げます。今後は会員の一人として、会の活動に協力していきたいと思います。熊本県学校事務研究協議会のますますのご発展と、皆様のご多幸をご祈念申し上げます。ありがとうございました。

第18回全事研セミナーの報告



※ 平成24年2月17日(金)に埼玉県川口市で行われました『第18回全事研セミナー』に参加された鹿本地区の山鹿市立稲田小学校 佐藤涼子さんの報告です。

第18回全事研セミナーに参加して

山鹿市立稲田小学校

佐藤 涼子

1 はじめに

本年度、学校事務職員として臨時採用されました。以前は、山鹿市内の中学校で4年間サポートティーチャーをしていました。その中学校でお二人の事務職員のお仕事ぶりをそばで見えてきて、自分も魅力ある仕事をしてみたいなと思ったのがきっかけです。

実際に仕事をしてみると、何もかもが初めてで学校の中に事務の仕事を教えてくれる人はいませんでした。近隣の学校の先生方にいろいろと教えていただく中で、全事研セミナーがあるから参加してみないかと誘われました。内容を見ても、学校評価などがあり今の私には少し難しいかなと思いましたが、自分のスキルアップのために参加しました。

2 講義に参加して

【講義Ⅰ-1】 文部科学省行政説明

開会式のあとすぐに文部科学省行政説明が行われました。講師は文部科学省初等中等教育局視学官の永井氏でした。平成24年度文部科学関係予算案から始まり、コミュニティ・スクールでは今後5年間に対象校を全国公立小中学校の1割(約3,000校)に増やすなど、今まで以上に地域と一体になった学校(地域とともにある)づくりが求められるというような説明でした。

また、昨年起きた東日本大震災を受けて、学校を安全で安心して教育を受けられる場にしなければならない(校舎の耐震化及び防災機能の強化工事)ということと、地域と一体になった学校づくりをするためには、事務職員が地域連携のコーディネーターとしての役割をして、学校と地域の橋渡し役(地域対応のセクションを担う役)になっていって欲しいということが印象に残っています。

【講義Ⅰ-2】 教員の資質能力向上特別部会について

この講義では、兵庫教育大学の教授日渡氏から、教職員の免許更新制度についてお話がありました。なぜ、免許更新が必要なのか、免許更新がない学校事務職員はどうするのか(今後経営や財務を専門に学んだ教員が配置される。)など、教員・事務職員の資質向上が、学校目標の達成につながるという内容でした。資質向上するために一人職の事務職員は、「教員」という言葉を「事務職員」に置き換えて、自分たちで研修等を作り上げていかなければならない。「今後5~10年以内に事務職員も否応なく変わらざるをえなくなる。」とのことで、「自分で変えよう。」という気持ちで、共同実施をツールとして使って欲しいとのことでした。「共同実施が平成10年から始まったが、ビジョンを決めずにスタートしてしまった。共同実施のビジョンは、県費事務の認定ではなく、学校の自主性・自立性のために実施

するものである」と言われました。私は、共同実施がなかったら学校事務をしていなかったかもしれないと思いました。共同実施のメリットは分からないことをきいたり、それをみんなで協議して、自分のものにすることができることだと思えます。共同実施はちょっとした研修会のようなもので、その小さな積み重ねが、自分のスキルアップになり、学校の自主性・自立性につながっていくのではないかとしたら共同実施をもっと充実したものにしたらどうかと思いました。

【講義Ⅱ】 学校評価のねらいと学校改善

午後からは、千葉大学教育学部の教授天笠氏から講義がありました。学校評価は、自己評価・学校関係者評価・第三者評価が連動制になっていることで、適切に学校評価が行われることが大切であるという内容でした。学校を評価してもらうには、学校を知ってもらわなければならないこと、学校からの情報発信や学校に来やすい場づくりを設定すること、またアンケートの工夫・改善などすぐにでもできそうなことばかりでした。

アンケートはとったもののどう生かされているのか、特定の職員だけが知っているのではなく、全教職員で共通理解をしておかなければならない。学校評価は、管理職中心主義ではなく、学校総体で取り組まなければならない。学校評価における情報の収集や分析、改善案の提示、学校と地域をつなぐ業務などに事務職員の活躍の場があり、事務の共同実施組織を活用していければよいと話されました。特定の職員（教頭など）がアンケートの印刷から集計をするのではなく、教員の負担軽減のためにもまずは、自分ができることをしていきたいと思いました。

【講義Ⅲ】 学校評価を活用した組織力ある学校づくり

一学校評価の取組実態と好事例にみるポイント

講義Ⅲでは、野村総合研究所 主任研究員の妹尾氏から、実際に取り組みされた学校評価をとおした講義がありました。学校評価は、学校運営の改善や保護者・地域等とのコミュニケーションで、連携・強みに役立つツールであるが、まだ活用できていないのではないかと話されました。学校評価を機能させるには、目標の共有（学校の目指すビジョンを教職員が共感し日々の活動のなかで意識している）・プロセスの設計（成功体験や仮説検証を繰り返し、自信をつけながら取組を改善している）・チームワーク（特定の個人への依存ではなく組織として取り組んでいる）の3点が秘訣で、どれか一つでも欠けたらうまく機能しない。ここでも「目標を明確にして、全職員で取り組むことが大切です。」という内容でした。初めからうまく行くわけではなく、「失敗してもやり直せばいい。」という気持ちで、試行錯誤しながら学校評価を作り上げていかなければいけないということがよくわかりました。

3 おわりに

一日のセミナーを終えて、どの講義でもチーム力・組織力という言葉が出てきました。個人で児童・生徒に対応するのではなく、私たち教職員が協働してコミュニケーションを図りながら、一つになっていないと学校が機能していかないし、子どもたちも伸びていかないんだと思いました。事務職員だから、授業をしないからではなく、学校にいる以上は子どもたちからも「先生」と呼ばれます。学校のため、子どもたちのために自分は何ができるのかを考えた時に、どんな小さなことでも気づいたことや自分で改善できることをすぐに実践することだと思えました。学校評価を機能させるためにも、その積み重ねが大切です。

学校事務の仕事もあっという間に一年が経とうとしています。どこの学校へ行っても、自分の気づきを実践して学校や子どもたちの環境づくりができたらいいなと思います。今回、このようなセミナーを受講することができてよかったです。ありがとうございました。

～編集後記～

大変お世話になりました。時間に追われて焦ることもありましたが、皆さまのおかげでなんとか1年間務めることができました。ありがとうございました。

(T)

慌ただしい年度末がやってきました。毎年桜が咲いていることも忘れてしまいそうな多忙感に追われてしまいますが、今年は…。今年は少し遅咲きのようですから花見も大丈夫か～？と踏んでいます。2年間会報づくりに携わってきましたが、魅力ある会報誌に！という意気込みとはうらはらに現実はなかなか幅を拡げる事ができず、申し訳なく思っております。また機会がありましたら色々勉強させていただきたいと思っています。お世話になりました。

(Y)

